

自分を活かし言葉を生かす～スピーチコンテストを通して～

スペイン語学科 3年 柏熊恵

自分のスペイン語能力を向上させるために必要なものは何だろうか・・・。

私がそう考えるときに、最初に思い浮かぶことは、**実践**です。もちろん、単語や熟語の暗記はスペイン語のみならず、学習することで身につけようとする外国語のすべてにおいて必要不可欠です。しかし、“向上させる”ために最も重要なことは、実際に使ってみることであると私は考え、そしてこれが私のスピーチコンテスト参加動機にあたるのです。

実際、私は高校3年次に私の出身である栃木県主催の英語スピーチコンテストに参加した経験があります。そこは留学経験のある生徒が多く集まる場で、旅行ですらも海外に行ったことがなかった私にとっては実力不足を見せつけら

れうる機会ではあったものの、高校時代の思い出づくりのため、また少しでも新たな言葉を学べればと、体験後の自分の成長を信じて望んだものでした。結果は当然何も語るほどのものはなく、しいて言うならば参加賞をいただいたようなものでしたが、私は新たに操れる言葉を得できたことと確信し、大変満足し、今となってはその経験を誇りに思っています。

そうして今回、現在学習中のスペイン語能力の向上を目指してスピーチコンテスト参加を決意したわけですが、テーマ決定・原稿作成という二つの作業は妥協をすれば全く単純な作業である一方、自分の意見をはっきりと伝えることを目標としていた私にとっては非常に複雑なものでした。それは、まだ使ったことのないフレ

ーズを取り入れてみるもののリスクがあるからです。つまり、自分なりの解釈で作ったスペイン語が実は少し違ったニュアンスを持ち得るからです。しかし、私は原稿内容を今回のために

みに創り上げた意見ではなく、本当に普段から自分が持つ意見や感情から構成したためか、あるいはその作成自体を楽しんでいたからか、不安ながらも完成させた文章はほとんどなく、幸運にもスペイン語に変換する段階において困難を感じることはほとんどありませんでした。もちろん、新たな語彙習得をメインの目標にしていたならば、その新しい単語や熟語を使ってみることに對して不安があつて当然、むしろそのような挑戦的な態度で取り組むべきなのかもしれませんが、私が重視したものは、操れるよう

になること”であつたので、一度も聞いたことのないような言い方は避け、自分がより感情を込められるよう、また、聞き手の人にもシンプルに伝わるよう、難しい文章は避けるようにしました。これもまた、苦難を軽減できた理由の一つであるかもしれません。何を意見とするか考えることではなく、意見をどう伝えるか考えることが感情とその言葉を連結できる最適な手段なのではないでしょうか、と私は思います。

本番当日は、予想外の人の多さやカメラやマイク等の機材を見て少し焦りを感じたのが本当のところでした。そして周囲の参加者からにじみ出てくる緊張感・・・ついに私も緊張を自覚しました。そんな中、音楽やコントの発表を見ているうちに、遂に自分の番がやってきました。私自身の評価としては、感情を込めて演説することはできたつもりですが、頭の中から飛んで行ってしまっと思ひ出せなかった文章があり、そこを反省点としています。単に緊張や焦りから忘れてしまったとも考えられるかもしれませんが、しかし、着目すべきところは別にあるでしょう。なぜならば、その文章はまだ自分の感情と結びついていない、まだ操ることのできてい

ないフレーズであつたためです。というのも、その言葉は後に換えたものだったからです。つまり、自分の意見や感情を本来から伴った言葉というのには本人のなかに浸透し、自然に発言されますが、作られた、あるいは暗記された言葉というものは、いざ使える状況になってもなかなか出てきません。それはあくまでも覚えられたという段階にあるだけであり、まだ自分の言葉となっていないからです。そしてこの解決策もまた、まだ自分のものとなっていない言葉を使つた、**実跡**であると思います。

今回のスピーチコンテスト参加で学んだこと・・・それは、一つのを成し遂げたときにはさらに一つ二つと何かを学んでいるということです。発表のためには表現方法を考え、表現するためには自分の言葉を選び、意見を書き上げるためには意見と気持ちと言葉とを結び付けています。この段階を経て自分の言葉で話すという行為が完成していくのです。また、自身で考えてみることが最終であり最大のステップだということも今回で確信しました。普段の授業中には多くの情報を得ることができず。しかし私たちはその情報を覚えることで

はなく、理解することで吸収・習得しているのです。従って、私たち学生には考えること、が最重要ポイントであると言えるのではないのでしょうか。そして考えてみるのが普段あまりないのならば、その機会には自分で見つけていくものではないでしょうか。私はそう考えます。スピーチコンテストは私たち外国語を学ぶ学生への些細なきっかけと共に多大な手ごたえを提供する機会であります。言葉は人と人とのコミュニケーションの手段であり、同時に自分をも表しているのです。私たちは言葉を生かして自分を活かし、自分を活かしながら言葉をも生かしてコミュニケーションをとっているのではないかと私は考えています。そして今後ともいかなることにあいても、考えてみることを忘れず、自分を飛躍させることのできる機会には進んで参加していこうと思つてい